

**当座勘定規定**

(b. 2025年10月1日以降、ご開設のお客さまに適用します。)

**第1条 (反社会的勢力との取引拒絶)**

- (1) この当座勘定は、第2項各号のいずれにも該当しない場合に利用することができ、第2項各号の一にでも該当する場合には、当金庫はこの当座勘定の開設をお断りするものとします。
- (2) 前項のほか、次の各号の一にでも該当し、当金庫が取引を継続することが不適切である場合には、当金庫はこの取引を停止し、または解約の通知をすることによりこの当座勘定を解約することができるものとします。なお、この解約によって生じた損害については、当金庫は責任を負いません。また、この解約により当金庫に損害が生じたときは、その損害額を支払ってください。
  - ① 当座勘定開設申込時にした表明・確約に関して虚偽の申告をしたことが判明した場合
  - ② 本人が、暴力団、暴力団員、暴力団員でなくなった時から5年を経過しない者、暴力団準構成員、暴力団関係企業、総会屋等、社会運動等標ぼうゴロまたは特殊知能暴力集団等、その他これらに準ずる者（以下これらを「暴力団員等」という。）に該当し、または次のいずれかに該当することが半明した場合
    - A. 暴力団員等が経営を支配していると認められる関係を有すること
    - B. 暴力団員等が経営に実質的に関与していると認められる関係を有すること
    - C. 自己、自社もしくは第三者の不正の利益を図る目的、または第三者に損害を加える目的をもってするなど、不当に暴力団員等を利用していると認められる関係を有すること
    - D. 暴力団員等に対して資金等を提供し、または便宜を供与するなどの関与をしていると認められる関係を有すること
    - E. 役員または経営に実質的に関与している者が暴力団員等と社会的に非難されるべき関係を有すること
  - ③ 本人が、自らまたは第三者を利用して次のいずれか一にでも該当する行為をした場合
    - A. 暴力的な要求行為
    - B. 法的な責任を超えた不当な要求行為
    - C. 取引に関して、脅迫的な言動をし、または暴力を用いる行為
    - D. 風説を流布し、偽計を用いまたは威力を用いて当金庫の信用を毀損し、または当金庫の業務を妨害する行為
    - E. その他AからDに準ずる行為

**第2条 (当座勘定への受入れ)**

- (1) 当座勘定には、現金のほか、手形、小切手、利札、郵便為替証書、配当金領収証その他の証券で直ちに取立てのできるもの（以下「証券類」という）も受入れます。
- (2) 手形要件、小切手要件の白地はあらかじめ補充してください。当金庫は白地を補充する義務を負いません。
- (3) 証券類のうち裏書等の必要があるものは、その手続を済ませてください。
- (4) 証券類の取立てのため特に費用を要する場合には、店頭掲示の代金取立手数料に準じてその取立手数料をいただきます。

**第3条 (証券類の受入れ)**

- (1) 証券類を受け入れた場合には、当店で取立て、不渡返還期限の経過後その決済を確認したうえでなければ、支払資金としません。
- (2) 当店を支払場所とする証券類を受入れた場合には、当店でその日のうちに決済を確認したうえで、支払資金とします。

**第4条 (本人振込み)**

- (1) 当金庫の他の本支店または他の金融機関を通じて当座勘定に振込みがあった場合には、当金庫で当座勘定元帳へ入金記帳したうえでなければ、支払資金としません。ただし、証券類による振込みについては、その決済の確認もしたうえでなければ、支払資金としません。
- (2) 当座勘定への振込みについて、振込通知の発信金融機関から重複発信等の誤発信による取消通知があった場合には、振込金の入金記帳を取消します。

**第5条 (第三者振込み)**

- (1) 第三者が当店で当座勘定に振込みをした場合に、その受入れが証券類によるときは、第3条と同様に取扱います。
- (2) 第三者が当金庫の他の本支店または他の金融機関を通じて当座勘定に振込みをした場合には、第4条と同様に取扱います。

**第6条 (受入証券類の不渡り)**

- (1) 前3条によって証券類による受入れまたは振込みがなされた場合に、その証券類が不渡りとなったときは、直ちにその旨を本人に通知するとともに、その金額を当座勘定元帳から引落し、本人からの請求がありしたいその証券類は受け入れた店舗、または振込みを受けた店舗で返却します。ただし、第5条の場合の不渡証券類は振込みをした第三者に返却するものとし、同条第1項の場合には、本人を通じて返却することもできます。
- (2) 前項の場合には、あらかじめ書面による依頼を受けたものにかぎり、その証券類について権利保全の手続をします。

**第7条 (手形、小切手の金額の取扱い)**

手形、小切手を受入れまたは第8条第1項の為替手形を支払う場合には、複記のいかんにかかわらず、所定の金額欄記載の金額によって取扱いします。

**第8条 (引受けた為替手形の支払等)**

- (1) 当店を支払場所として引受けられた為替手形が呈示期間内に支払のため呈示された場合には、当座勘定から支払います。
- (2) 前項の支払にあたっては、為替手形の引受けの事実の有無等を確認すること（その旨について書面の交付を求めることを含みます）があります。
- (3) 当座勘定の払戻しの場合には、当金庫所定の払戻請求書を使用し、届出または登録の印鑑により記名押印のうえ提出してください。
- (4) 前項の払戻しの手続に加え、当該当座勘定の払戻しを受けることについて正当な権限を有することを確認するための本人確認等の手続を求めることがあります。この場合、当金庫が必要と認めるときは、この確認ができるまでは払戻しを行わないことがあります。

**第9条 (手形、小切手用紙)**

- (1) 当金庫は、手形用紙、小切手用紙の発行を行いません。
- (2) 当店を支払場所とする為替手形を引受ける場合には、預金業務を営む金融機関の交付した手形用紙であることを確認してください。
- (3) 前項以外の手形または小切手については、当金庫はその支払をしません。
- (4) 当座勘定から支払をした為替手形のうちに、本人が引き受けたものではないものや改ざんが疑われるものがあつた場合には、直ちに当金庫宛に連絡してください。
- (5) 当座勘定から支払をした為替手形の用紙はその支払日から3か月を経過した場合は返却を求めることができないものとします。
- (6) 前項の期間を経過した場合において、本人から請求があつたときは、当金庫所定の手続きによって当該手形の写しを交付します。ただし、当金庫が定める写しの保管期限を経過した場合は、その限りではありません。

**第10条 (支払の範囲)**

- (1) 呈示された為替手形等の金額が当座勘定の支払資金をこえる場合には、当金庫はその支払義務を負いません。
- (2) 為替手形等の金額の一部支払はしません。

**第11条 (支払の選択)**

同日に数通の為替手形等の支払をする場合にその総額が当座勘定の支払資金をこえるときは、そのいずれを支払うかは当金庫の任意とします。

**第12条 (過振り)**

- (1) 第10条の第1項にかかわらず、当金庫の裁量により支払資金をこえて為替手形等の支払をした場合には、当金庫からの請求がありたい直ちにその不足金を支払ってください。
- (2) 前項の不足金に対する損害金の割合は年18.25%（年365日の日割計算）とし、当金庫所定の方法によって計算します。
- (3) 第1項により当金庫が支払をした後に当座勘定に受入れまたは振込まれた資金は、同項の不足金に充当します。
- (4) 第1項による不足金、および第2項による損害金の支払がない場合には、当金庫は諸預り金その他の債務とその期限のいかんにかかわらず、いつでも差引計算することができます。
- (5) 第1項による不足金がある場合には、本人から当座勘定に受入れまたは振込まれている証券類は、その不足金の担保として譲り受けたものとし、返却を拒否します。

**第13条 (手数料等の引落し)**

- (1) 当金庫が受取るべき貸付金利息、割引料、手数料、保証料、立替費用、その他これに類する債権が生じた場合には、払戻請求書によらず、当座勘定からその金額を引落すことができます。
- (2) 当座勘定から各種料金等の自動支払をする場合には、当金庫所定の手続をしてください。

**第14条 (印鑑等の届出)**

- (1) 当座勘定の取引に使用する印鑑（または署名鑑）は、当金庫所定の用紙を用い、あらかじめ当店に届出てください。
- (2) 代理人により取引をする場合には、本人からその氏名と印鑑（または署名鑑）を前項と同様に届出てください。

**第15条 (届出事項の変更)**

- (1) 為替手形、印章を失った場合、または印章、名称、商号、代表者、代理人、住所、電話番号その他届出事項に変更があつた場合には、直ちに書面によって当店に届出てください。
- (2) 前項の届出の前に生じた損害については、当金庫は責任を負いません。
- (3) 第1項による届出事項の変更の届出がなかつたために、当金庫からの通知または送付する書類等が延着し、または到達しなかつた場合には、通常到達すべき時に到達したものとみなします。
- (4) 当座勘定の開設等の際には、当金庫は、法令で定める本人確認等の確認を行います。この際に行う確認事項に変更があつたときは、直ちに当金庫所定の方法によって当店に届出てください。

**第16条 (印鑑照合等)**

- (1) 為替手形、払戻請求書または諸届け書類に使用された印影または署名（電磁的記録により当金庫に画像として送信されるものを含みます）を、届出の印鑑（または署名鑑）と相当の注意をもって照合し、相違ないものと認

めて取り扱いましたうえは、その為替手形、払戻請求書または諸届け書類につき、偽造、変造その他の事故があつても、そのために生じた損害については、当金庫は責任を負いません。

- (2) 為替手形として使用された用紙（電磁的記録により当金庫に画像として送信されるものを含みます）を、相当の注意をもって第9条第2項の交付用紙であると認めて取り扱いましたうえは、その用紙につき偽造、変造、流用があつても、そのために生じた損害については、前項と同様とします。
- (3) この規定および別に定める為替手形用法に違反したために生じた損害についても、第1項と同様とします。

#### 第17条（振出し、受取人記載もれの為替手形）

(1) 為替手形を引受ける場合には、手形要件をできるかぎり記載してください。もし、確定日払の為替手形で振出し日の記載のないものまたは為替手形で受取人の記載のないものが呈示されたときは、その都度連絡することなく支払うことができるものとします。

(2) 前項の取扱いによって生じた損害については、当金庫は責任を負いません。

#### 第18条（自己取引手形等の取扱い）

(1) 手形行為に取締役会の承認、社員総会の認許その他これに類する手続を必要とする場合でも、その承認等の有無について調査を行うことなく、支払をすることができます。

(2) 前項の取扱いによって生じた損害については、当金庫は責任を負いません。

#### 第19条（利息）

当座預金には利息をつけません。

#### 第20条（残高の報告）

当座勘定の受払または残高の照会があつた場合には、当金庫所定の方法により報告します。

#### 第21条（譲渡、質入れの禁止）

- (1) この預金は、譲渡または質入れをすることはできません。
- (2) 当金庫がやむを得ないものと認めて質入れを承諾する場合には、当金庫所定の書式によります。

#### 第22条（解約）

- (1) この取引は、当事者の一方の都合でいつでも解約することができます。ただし、当金庫に対する解約の通知は書面によるものとします。
- (2) 当金庫が解約の通知を届出の住所にあてて発信した場合に、その通知が延着しまたは到達しなかつたときは、通常到達すべき時に到達したものとみなします。
- (3) 手形交換所の取引停止処分を受けたために、当金庫が解約する場合には、到達のいかんにかかわらず、その通知を発信した時に解約されたものとします。

#### 第23条（取引終了後の処理）

この取引が終了した場合には、その終了前に引受けられた為替手形であっても、当金庫はその支払義務を負いません。

#### 第24条（手形交換所規則による取扱い）

- (1) この取引については、前各条のほか、関係のある手形交換所の規則に従つて処理するものとします。
- (2) 関係のある手形交換所で災害、事変等のやむを得ない事由により緊急措置がとられている場合には、第8条の第1項にかかわらず、呈示期間を経過した為替手形についても当座勘定から支払うことができるなど、その緊急措置に従つて処理するものとします。
- (3) 前項の取扱いによって生じた損害については、当金庫は責任を負いません。

#### 第25条（成年後見人等の届出）

- (1) 家庭裁判所の審判により、補助・保佐・後見が開始された場合には、直ちに書面によって成年後見人等の氏名その他必要な事項を届出てください。また、預金者の補助人・補佐人・後見人について、家庭裁判所の審判により、補助・補佐・後見が開始された場合にも、同様にお届けください。
- (2) 家庭裁判所の審判により、任意後見監督人の選任がなされた場合には、直ちに書面によって任意後見人の氏名その他必要な事項を届出てください。
- (3) すでに、補助・保佐・後見開始の審判を受けている場合、または任意後見監督人の選任がなされている場合にも、前1、2項と同様に、直ちに書面によって届出てください。
- (4) 前1～3項の届出事項に取消または変更等が生じた場合にも同様に、直ちに書面によって届出てください。
- (5) 前1～4項の届出の前に生じた損害については、当金庫は責任を負いません。

#### 第26条（通知等）

届出のあつた氏名、住所にあてて当金庫が通知または送付書類を発送した場合には、延着しまたは到達しなかつたときでも通常到達すべき時に到達したものとみなします。

#### 第27条（保険事故発生時における預金者からの相殺）

(1) この預金は、当金庫に預金保険法の定める保険事故が生じた場合には、本条各項の定めにより相殺することができます。なお、この預金に、預金者の当金庫に対する債務を担保するため、もしくは第三者の当金庫に対する債務で預金者が保証人となっているものを担保するために質権等の担保権

が設定されている場合にも同様の取扱いとします。

(2) 相殺する場合の手続きについては、次によるものとします。

- ① 相殺通知は書面によるものとし、複数の借入金等の債務がある場合には、充分の順序方法を指定してください。ただし、この預金で担保される債務がある場合には、当該債務から、または当該債務が第三者の当金庫に対する債務である場合には預金者の保証債務から相殺されるものとし、ます。
- ② 前号の充分の指定のない場合には、当金庫の指定する順序方法により充たします。
- ③ 第1号による指定により、債権保全上支障が生じるおそれがある場合には、当金庫は遅滞なく異議を述べ、担保・保証の状況等を考慮して、順序方法を指定することができるものとします。
- (3) 相殺する場合の借入金等の債務の利息、割引料、遅延損害金等の計算については、その期間を相殺通知が当金庫に到達した日までとして、利率、料率は当金庫の定めるものとします。また借入金等を期限前弁済することにより発生する損害金等の取扱いについては当金庫の定めによるものとします。
- (4) 相殺する場合の外国為替相場については当金庫の計算実行時の相場を適用するものとします。
- (5) 相殺する場合において借入金の期限前弁済等の手続きについて別に定めがあるときには、その定めによるものとします。ただし、借入金の期限前弁済等について当金庫の承諾を要する等の制限がある場合においても相殺することができるものとします。

#### 第28条（規定の変更）

- (1) この規定の各条項その他条件は、金融情勢その他状況の変化等相当の事由があると認められる場合には、当金庫ホームページへの掲載その他相当の方法で公表することにより、変更できるものとします。
- (2) 前記(1)の変更は、公表の際に定める適用開始日から適用されるものとし、公表の日から適用開始日までに変更内容に応じて相当の期間をおくものとします。

以上

2025年10月1日現在